

# 2019年3月期 第3四半期 決算実績 概況資料

2019年2月7日

株式会社西武ホールディングス（9024）

<http://www.seibuholdings.co.jp/>

# I. エグゼクティブ・サマリー

P2

II. 2019年3月期 第3四半期までの主な取り組み P6

III. セグメント情報及び営業指標 P9

IV. 決算実績詳細 P22

V. 2019年3月期 連結業績予想 P26

# 2019年3月期 第3四半期 決算実績

(金額単位：億円)

	2018/3期 第3Q	2019/3期 第3Q	対前年同期 (増減額・率)	
営業収益	3,986	4,216	+230	+5.8%
営業利益	547	588	+40	+7.5%
償却前営業利益 <sup>※</sup>	925	986	+61	+6.7%
経常利益	482	526	+43	+9.0%
親会社株主に帰属する四半期純利益	334	363	+28	+8.5%

※償却前営業利益は、営業利益に減価償却費及びのれん償却額を加えて算定しております。

## 決算実績ポイント

### ■ 営業収益

ホテル業においてRevPARの上昇やMICEが堅調に推移したこと、東京ガーデンテラス紀尾井町における賃料収入の増加のほか、建設事業における建築工事やリノベーション工事の増加、西武ライオンズの観客動員数の増加、ハワイ事業におけるホテルのRevPAR上昇などにより増収

▶ 3ページ

### ■ 営業利益・経常利益・親会社株主に帰属する四半期純利益 増収による増益

▶ 4・22・23ページ

#### <西武鉄道・鉄道業>

運輸収入 前年同期比+1.2% (定期+1.0%、定期外+1.4%)

▶ 10ページ

#### <ホテル業>

RevPAR 12,664円 (前年同期比+6.3%)

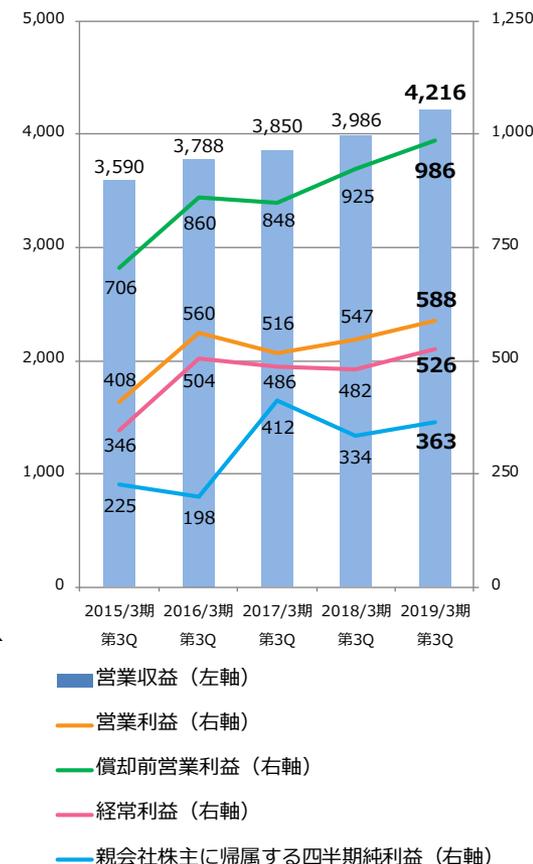
シティ13,721円 (同+7.0%)、リゾート10,430円 (同+4.1%)

▶ 12ページ

2019年2月7日 Copyright © SEIBU HOLDINGS INC. All Rights Reserved.

## 業績の推移

(金額単位：億円)



# セグメント別営業収益

(金額単位：億円)

	2018/3期 第3Q	2019/3期 第3Q	対前年同期 (増減額・率)		摘要
都市交通・沿線事業	1,215	1,227	+12	+1.0%	鉄道業において、雇用情勢の堅調な推移、メットライフドームでのイベント開催や野球観客動員数の増加、グランエミオ所沢Ⅰ期の開業、有料座席指定列車「拝島ライナー」の導入などにより定期・定期外ともに旅客運輸収入が増加したことや、バス業が好調に推移したことにより増収
ホテル・レジャー事業	1,542	1,656	+113	+7.4%	ホテル業におけるRevPARの上昇、MICEの堅調な推移、StayWell社の連結子会社化などにより増収
不動産事業	467	482	+15	+3.2%	前年同期の住宅販売の反動があったものの、東京ガーデンテラス紀尾井町の賃料収入増加などにより増収
建設事業	712	755	+42	+6.0%	建築工事やリノベーション工事が増加したことなどにより増収
ハワイ事業	115	139	+23	+20.4%	ハプナビーチプリンスホテルの改装による営業規模縮小や、キラウエア火山の噴火の影響があったものの、プリンスワイキキ、マウナケアビーチホテルにおいて平均販売室料・客室稼働率ともに上昇したことにより増収
その他	323	346	+23	+7.3%	西武ライオンズにおいて各種営業施策の実施や好調なチーム成績を背景に観客動員数が増加したほか、選手関連グッズの販売が好調に推移したことなどにより増収
調整額	△ 391	△ 392	△ 0	—	
<b>連結数値</b>	<b>3,986</b>	<b>4,216</b>	<b>+230</b>	<b>+5.8%</b>	

# セグメント別営業利益・償却前営業利益

## ■ 営業利益

(金額単位：億円)

	2018/3期 第3Q	2019/3期 第3Q	対前年同期 (増減額・率)		摘要
都市交通・沿線事業	240	229	△ 11	△ 4.8%	鉄道業・バス業において運輸収入が増加したものの、一般管理費や電気動力費、燃料費、修繕費などの費用が増加したことにより減益
ホテル・レジャー事業	134	153	+ 19	+ 14.3%	将来の成長に資する費用（戦略的な人員の増加、新規事業関連の費用等）、水道光熱費、減価償却費などが増加したものの、増収により増益
不動産事業	127	150	+ 22	+ 18.1%	前年同期の住宅販売の反動があったものの、東京ガーデンテラス紀尾井町の賃料収入増加などにより増益
建設事業	36	36	△ 0	△ 0.1%	民間住宅工事の減少や利益率の低下、販管費の増加などにより前年同期比横ばい
ハワイ事業	△ 13	△ 11	+ 2	-	増収により損益が改善
その他	22	25	+ 3	+ 14.1%	増収による増益
調整額	△ 0	4	+ 4	-	
<b>連結数値</b>	<b>547</b>	<b>588</b>	<b>+ 40</b>	<b>+ 7.5%</b>	

## ■ 償却前営業利益

(金額単位：億円)

	2018/3期 第3Q	2019/3期 第3Q	対前年同期 (増減額・率)		摘要
都市交通・沿線事業	400	388	△ 12	△ 3.0%	
ホテル・レジャー事業	248	274	+ 26	+ 10.8%	
不動産事業	195	226	+ 30	+ 15.7%	
建設事業	39	39	+ 0	+ 0.4%	
ハワイ事業	1	7	+ 5	+ 336.0%	
その他	44	48	+ 4	+ 9.8%	
調整額	△ 4	1	+ 6	-	
<b>連結数値</b>	<b>925</b>	<b>986</b>	<b>+ 61</b>	<b>+ 6.7%</b>	

I. エグゼクティブ・サマリー P2

**II. 2019年3月期 第3四半期までの  
主な取り組み P6**

III. セグメント情報及び営業指標 P9

IV. 決算実績詳細 P22

V. 2019年3月期 連結業績予想 P26

# 2019年3月期 第3四半期までの主な取り組み

## 全体

- ・西武グループ経営理念「グループビジョン」の取り組みが「PRアワードグランプリ 2018」審査会でシルバー賞を受賞
- ・従業員の活躍支援を目的とした西武グループ企業主導型保育園「えみきっず」を開園（2018年11月1日）
- ・新規事業分野の創出に向け、VCファンドへの出資を実施（2018年7月27日）
- ・株主価値極大化を企図した成長投資を優先していく一方、株主還元の充実と資本効率の向上をはかるため、機動的な資本政策の一環として自己株式の取得を実施



西武グループ企業主導型保育園  
「えみきっず」

## 都市交通・沿線事業

- ・新型特急車両の愛称を「Laview」に決定（2019年3月16日運行開始予定）
- ・西武鉄道が「いい地盤の日アワード」で大賞を受賞（2018年11月28日）
- ・西武新宿駅、飯能駅のリニューアル工事を実施（2019年3月完了予定）
- ・スマートロッカー「ラクトル™」、警備ロボット「Perseusbot（ペルセウスロボット）」などの実証実験を実施
- ・「西武フィットネス emifit 鷺ノ宮」（2018年4月7日）、「西武フィットネス emifit 東久留米」（2018年11月27日）を開業



新型特急車両「Laview」

## ホテル・レジャー事業

- ・会員制ホテル事業「プリンス バケーション クラブ」開業決定（2019年7月開業予定）  
「プリンス バケーション クラブ ヴィラ軽井沢浅間」「プリンス バケーション クラブ 軽井沢浅間」「プリンス バケーション クラブ 三養荘」
- ・「グランドプリンスホテル新高輪」においてクラブラウンジの移設とスイートルームの増設を実施（2018年12月より順次開業）
- ・「新宿プリンスホテル」（2018年10月）、「札幌プリンスホテル」（2018年12月より順次）において一部客室のリニューアルを実施
- ・プリンスホテルの国内ホテル、スキー場、ゴルフ場の直営レストラン・宴会場において使い捨てプラスチック製ストロー廃止を決定（2019年1月より順次廃止）
- ・海外ラグジュアリーブランド「The Prince AKATOKI」を創設し、イギリス・ロンドン（2019年夏以降開業予定）、中国・広州（2019年冬開業予定）での開業を決定
- ・StayWell Holdings Pty Ltdが、インドネシアに1軒（2018年7月）、南インドに2軒（2018年8月、11月）ホテルを開業、運営ホテル数は合わせて25ホテルに（2018年12月31日時点）



プリンス バケーション クラブ  
三養荘 客室イメージ

# 2019年3月期 第3四半期までの主な取り組み

## 不動産事業

- ・「(仮称)西武鉄道池袋ビル(池袋旧本社ビル建替え計画)」の建物名称を「ダイヤゲート池袋」に決定(2019年4月開業予定)
- ・駅チカ保育所「Nicot 練馬」(2019年4月1日開設予定)、「Nicot 東長崎」(2019年9月1日開設予定)を開設決定
- ・駅ナカ商業施設「エミオ秋津」をグランドオープン(2018年11月29日)
- ・分譲マンション「アンヴィーネ 保谷」販売



ダイヤゲート池袋

## ハワイ事業

- ・プリンス ワイキキが世界最大級の旅行口コミサイト「トリップアドバイザー」にて、「2018年エクセレンス認証」を受賞
- ・ハプナビーチプリンスホテルの全面改装完了。ウェスティンブランドに加盟し、ホテル名称を「ウェスティン ハプナ ビーチ リゾート」として営業開始(2018年6月26日)



ウェスティン ハプナ ビーチ リゾート  
客室

## その他

- ・埼玉西武ライオンズが10年ぶり22回目のパシフィック・リーグ優勝
- ・メットライフドームエリア ポールパーク化に向けて工事を推進(2021年春完了予定)  
このうち、「ライオンズ チームストア フラッグス」「新室内練習場・若獅子寮」「オフィス棟」は2019年6月竣工予定
- ・箱根芦ノ湖で水陸両用バス「NINJABUS WATER SPIDER」運航開始(2018年4月27日)



埼玉西武ライオンズ

I. エグゼクティブ・サマリー P2

II. 2019年3月期 第3四半期までの主な取り組み P6

**III. セグメント情報及び営業指標 P9**

IV. 決算実績詳細 P22

V. 2019年3月期 連結業績予想 P26

# 都市交通・沿線事業 概況

(金額単位：百万円)

	2018/3期 第3Q	2019/3期 第3Q	対前年同期 (増減額・率)		摘要
営業収益	121,538	122,748	+ 1,209	+ 1.0%	
鉄道業	79,349	79,843	+ 494	+ 0.6%	西武電設工業の減収があったものの、定期・定期外ともに旅客運輸収入が増加したことにより増収
バス業	19,568	19,974	+ 406	+ 2.1%	路線バスが好調に推移し増収
沿線レジャー業	16,791	17,187	+ 395	+ 2.4%	としまえんにおいて夏季を中心に入場者数が増加したことなどにより増収
その他	5,829	5,742	△ 86	△ 1.5%	
営業利益	24,050	22,906	△ 1,143	△ 4.8%	鉄道業・バス業において運輸収入が増加したものの、一般管理費や電気動力費、燃料費、修繕費などの費用が増加したことにより減益
償却前営業利益	40,095	38,877	△ 1,217	△ 3.0%	

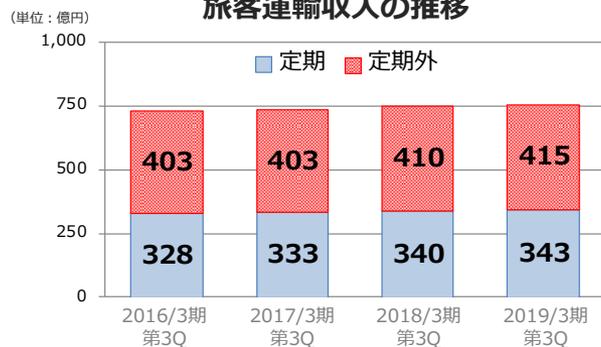
# 都市交通・沿線事業 鉄道業の運輸成績

## 輸送人員・旅客運輸収入（西武鉄道株式会社）

（人員単位：千人、金額単位：百万円）

	2016/3期 第3Q	2017/3期 第3Q	対前年同期 増減率	2018/3期 第3Q	対前年同期 増減率	2019/3期 第3Q	対前年同期 増減率
輸送人員	定期	302,825	+ 1.6%	313,424	+ 1.9%	316,600	+ 1.0%
	定期外	183,499	+ 0.0%	185,604	+ 1.1%	187,860	+ 1.2%
	計	486,324	+ 1.0%	499,029	+ 1.6%	504,460	+ 1.1%
旅客運輸 収入	定期	32,838	+ 1.6%	34,009	+ 2.0%	34,345	+ 1.0%
	定期外	40,300	+ 0.1%	41,015	+ 1.7%	41,598	+ 1.4%
	計	73,139	+ 0.8%	75,024	+ 1.8%	75,944	+ 1.2%
運輸雑収	3,109	2,987	△ 3.9%	2,986	△ 0.0%	2,990	+ 0.1%
収入合計	76,248	76,680	+ 0.6%	78,011	+ 1.7%	78,934	+ 1.2%

### 旅客運輸収入の推移



2019年2月7日

Copyright © SEIBU HOLDINGS INC. All Rights Reserved.

#### ■ 定期

雇用情勢の堅調な推移により増加

#### ■ 定期外

メットライフドームでのイベント開催や野球観客動員数の増加、グランエミオ所沢 I 期の開業、有料座席指定列車「拝島ライナー」の導入などにより増加

# ホテル・レジャー事業 概況

(金額単位：百万円)

	2018/3期 第3Q	2019/3期 第3Q	対前年同期 (増減額・率)		摘要
営業収益	154,279	165,646	+ 11,366	+ 7.4%	
ホテル業（シティ）	90,758	97,418	+ 6,660	+ 7.3%	RevPARの上昇、食堂部門やMICEの堅調な推移などにより増収
ホテル業（リゾート）	30,081	31,308	+ 1,227	+ 4.1%	自然災害によるキャンセル等の影響があったものの、RevPARの上昇や、前期に改装による営業休止をしていた事業所の収益寄与などにより増収
ゴルフ場業	10,959	11,048	+ 88	+ 0.8%	自然災害や猛暑の影響があったものの、コンペの獲得や個人の集客などにより増収
その他	22,479	25,869	+ 3,390	+ 15.1%	StayWell社の連結子会社化や、2018年6月に開業した「上越市立水族博物館 うみがたり」の指定管理者としての運営開始などにより増収
営業利益	13,451	15,369	+ 1,917	+ 14.3%	
償却前営業利益	24,803	27,489	+ 2,685	+ 10.8%	将来の成長に資する費用（戦略的な人員の増加、新規事業関連の費用等）、水道光熱費、減価償却費などが増加したものの、増収により増益

# ホテル・レジャー事業 営業指標の推移

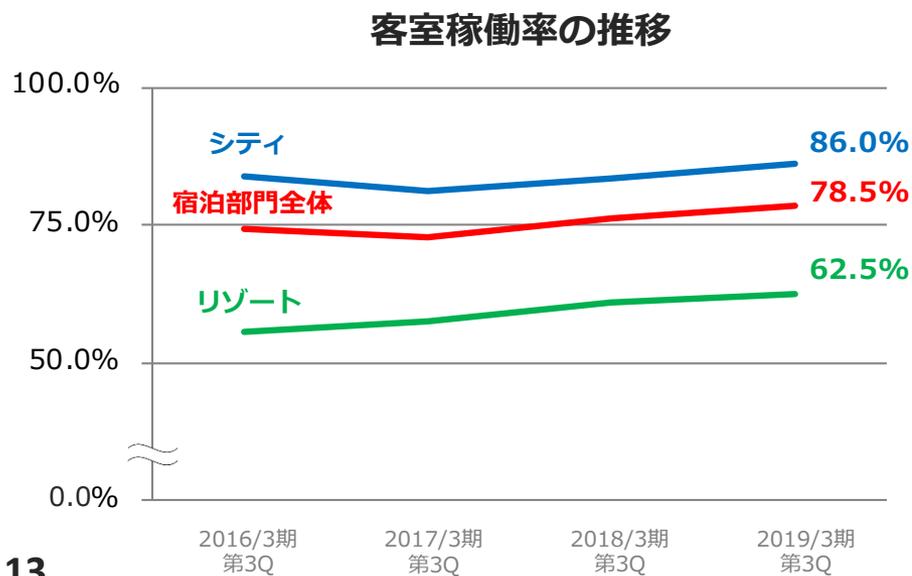
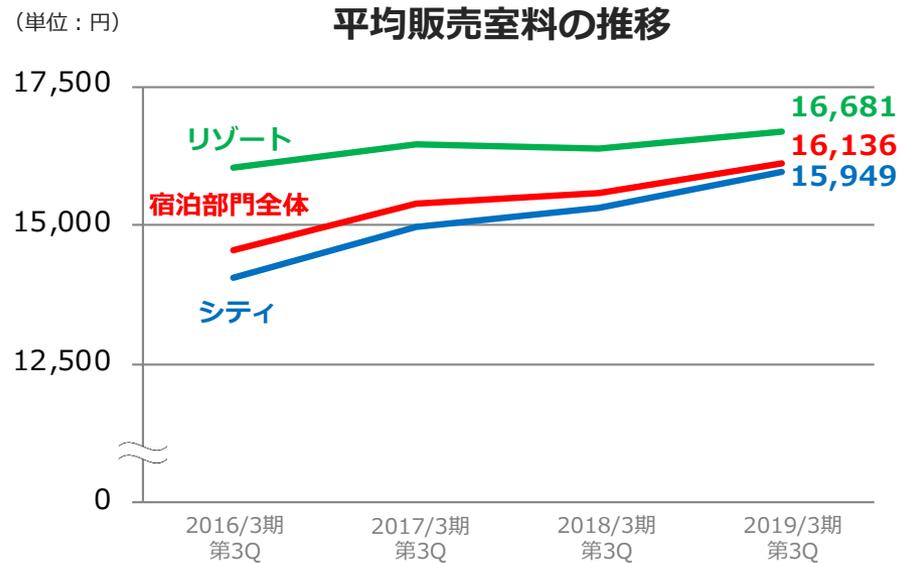
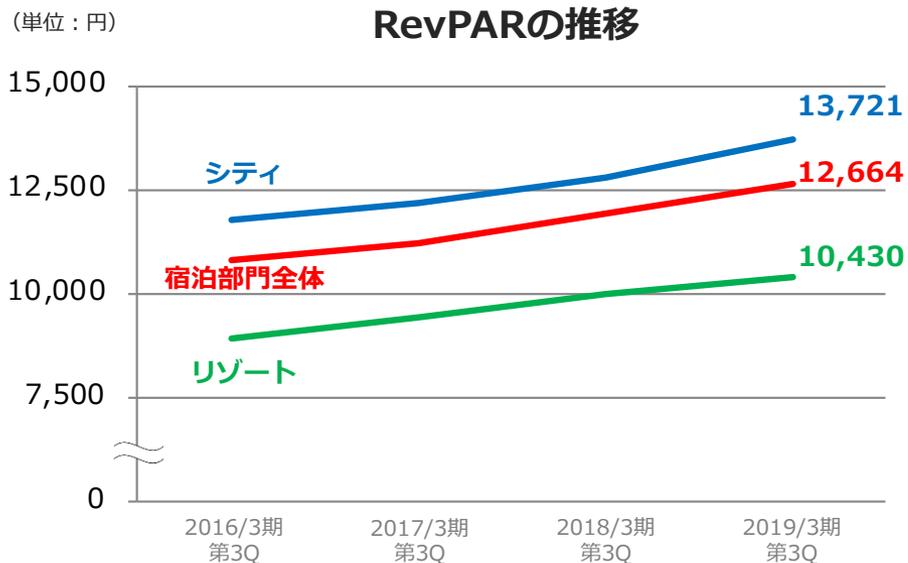
## ホテル業の営業指標（株式会社プリンスホテル）

(RevPAR・平均販売室料：円)

		2016/3期 第3Q	2017/3期 第3Q	対前年同期 増減率	2018/3期 第3Q	対前年同期 増減率	2019/3期 第3Q	対前年同期 増減率
RevPAR	シティ	11,788	12,168	+ 3.2%	12,821	+ 5.4%	13,721	+ 7.0%
	高輪・品川エリア	12,522	13,073	+ 4.4%	13,263	+ 1.5%	13,942	+ 5.1%
	リゾート	8,910	9,449	+ 6.1%	10,017	+ 6.0%	10,430	+ 4.1%
	軽井沢エリア	19,896	19,848	△ 0.2%	21,174	+ 6.7%	21,813	+ 3.0%
	宿泊部門全体	10,817	11,228	+ 3.8%	11,917	+ 6.1%	12,664	+ 6.3%
平均販売室料	シティ	14,039	14,986	+ 6.7%	15,318	+ 2.2%	15,949	+ 4.1%
	高輪・品川エリア	14,306	14,929	+ 4.4%	14,954	+ 0.2%	15,462	+ 3.4%
	リゾート	16,062	16,453	+ 2.4%	16,400	△ 0.3%	16,681	+ 1.7%
	軽井沢エリア	32,191	31,476	△ 2.2%	32,756	+ 4.1%	30,975	△ 5.4%
	宿泊部門全体	14,548	15,385	+ 5.8%	15,597	+ 1.4%	16,136	+ 3.5%
客室稼働率	シティ	84.0%	81.2%	△ 2.8pt	83.7%	+ 2.5pt	86.0%	+ 2.3pt
	高輪・品川エリア	87.5%	87.6%	+ 0.0pt	88.7%	+ 1.1pt	90.2%	+ 1.5pt
	リゾート	55.5%	57.4%	+ 2.0pt	61.1%	+ 3.6pt	62.5%	+ 1.5pt
	軽井沢エリア	61.8%	63.1%	+ 1.3pt	64.6%	+ 1.6pt	70.4%	+ 5.8pt
	宿泊部門全体	74.4%	73.0%	△ 1.4pt	76.4%	+ 3.4pt	78.5%	+ 2.1pt

(注) 高輪・品川エリア：ザ・プリンス さくらタワー東京、グランドプリンスホテル高輪、グランドプリンスホテル新高輪、品川プリンスホテル  
 軽井沢エリア：ザ・プリンス 軽井沢、ザ・プリンス ヴィラ軽井沢、軽井沢プリンスホテル

# ホテル・レジャー事業 営業指標の推移



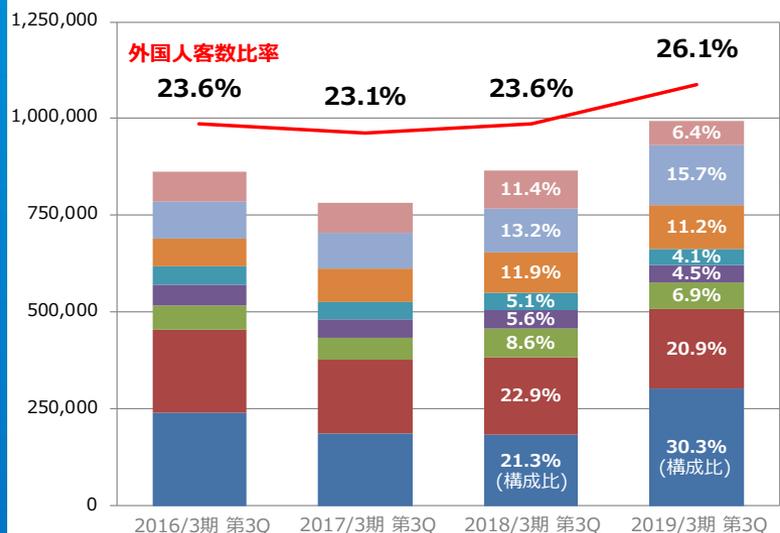
# ホテル・レジャー事業 インバウンドの動向 (宿泊客数・室料収入)

(人員単位：人、金額単位：百万円)

		2016/3期 第3Q	2017/3期 第3Q	対前年同期	2018/3期 第3Q	対前年同期	2019/3期 第3Q	対前年同期
宿泊客数 の内訳	邦人客	2,787,780	2,608,091	△ 179,689	2,798,894	+ 190,803	2,820,470	+ 21,576
	外国人客	863,253	783,573	△ 79,680	866,607	+ 83,034	995,252	+ 128,645
	計	3,651,033	3,391,664	△ 259,369	3,665,501	+ 273,837	3,815,722	+ 150,221
室料収入	外国人客	14,188	14,111	△ 76	16,842	+ 2,730	19,612	+ 2,770

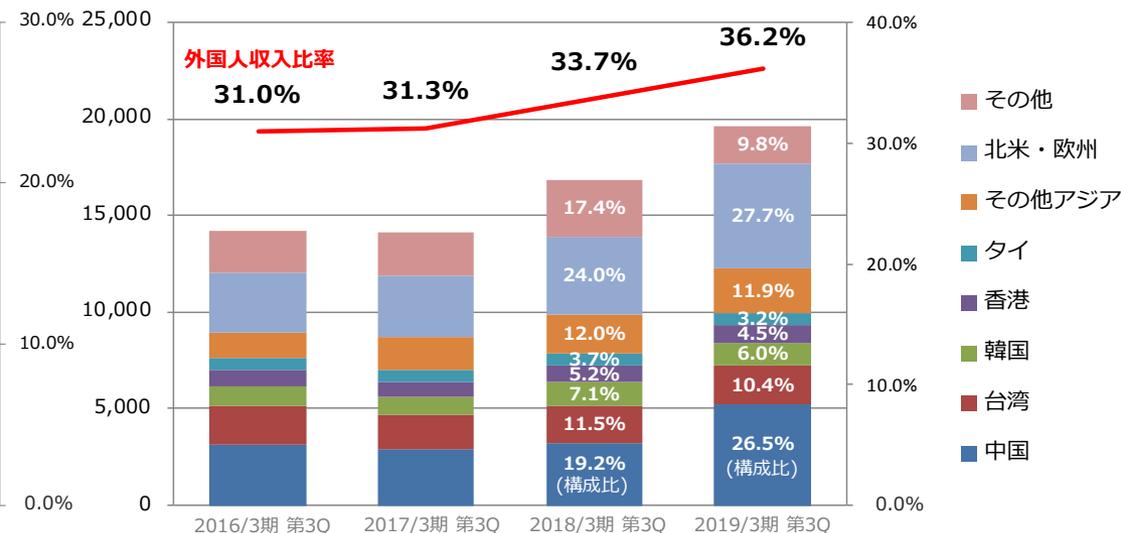
## 外国人宿泊客数・比率

(単位：人)



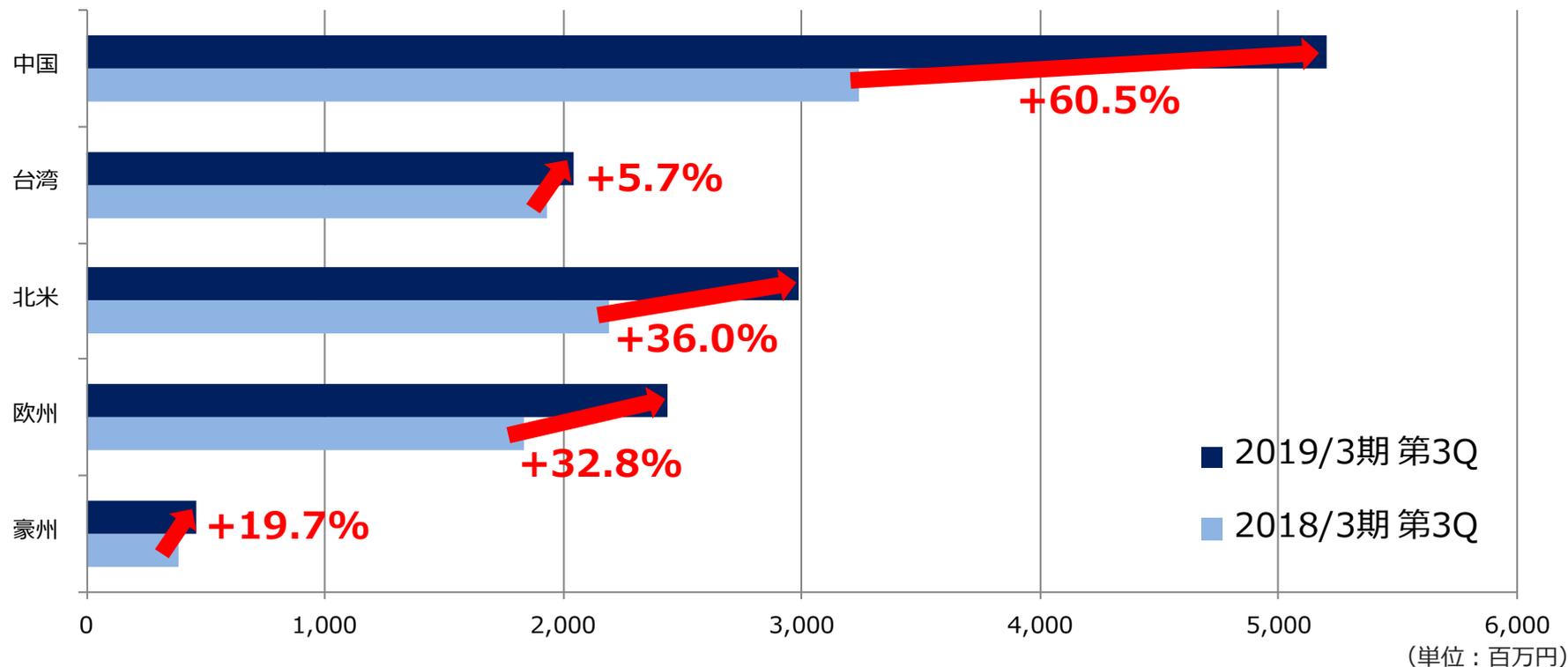
## 外国人室料収入・比率

(単位：百万円)



# ホテル・レジャー事業 マーケットチェンジの状況

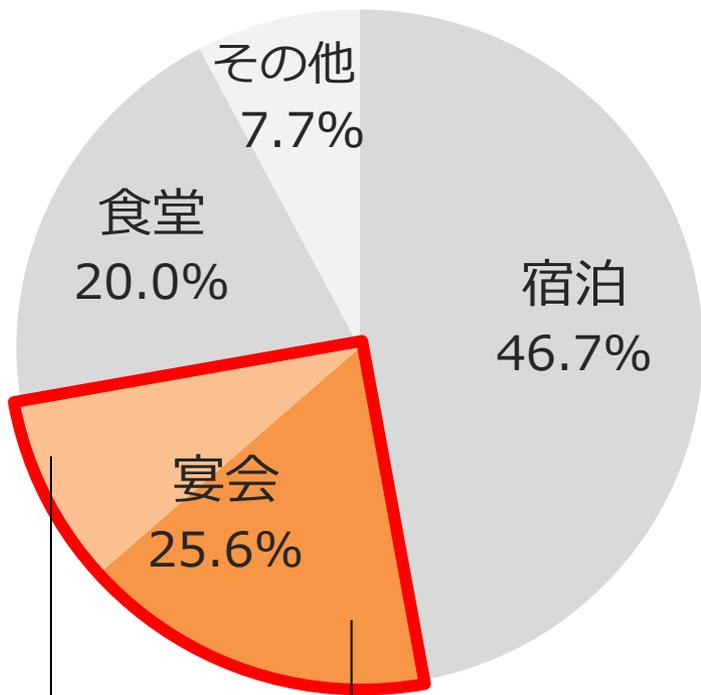
## ■ 主な国・地域の外国人室料収入



北米、欧州、豪州など、より単価の高い地域の増加に加え、予約のベースとなる中国などのアジアマーケットも獲得

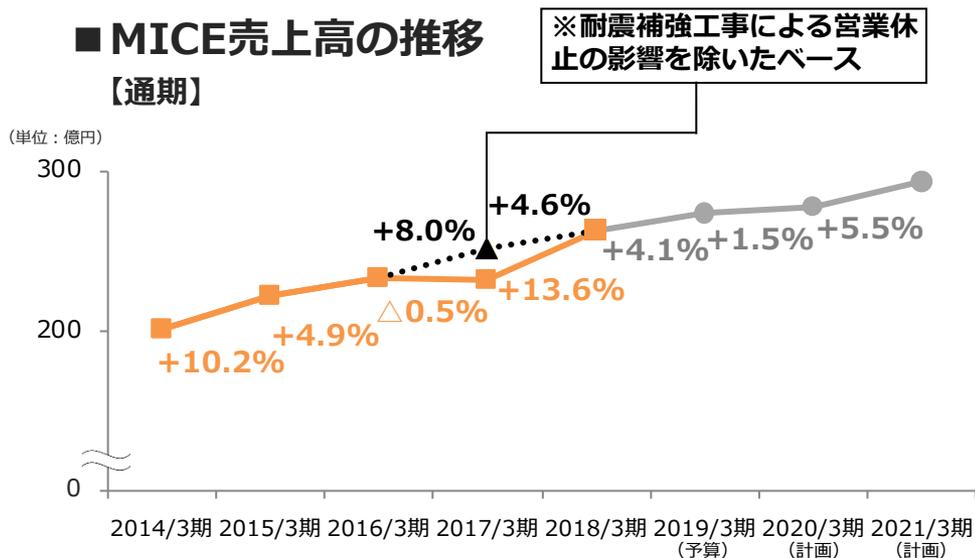
# ホテル・レジャー事業 MICEの状況

■ ホテル業の売上高構成比 (2019年3月期第3Q)



ブライダル・その他宴会 8.8% — **MICE 16.8%**

■ MICE売上高の推移  
【通期】



【第3四半期】



企業のミーティングやセミナー、インセンティブ（社内表彰）の需要を着実に取込み、MICE売上高は増加トレンドが継続

# 不動産事業 概況

(金額単位：百万円)

	2018/3期 第3Q	2019/3期 第3Q	対前年同期 (増減額・率)		摘要
営業収益	46,763	48,277	+ 1,514	+ 3.2%	
不動産賃貸業	31,295	35,243	+ 3,948	+ 12.6%	東京ガーデンテラス紀尾井町の賃料収入増加などにより増収
その他	15,467	13,033	△ 2,434	△ 15.7%	前年同期に西武立川駅前での住宅販売があったことなどにより減収
営業利益	12,708	15,008	+ 2,299	+ 18.1%	前年同期の住宅販売の反動があったものの、東京ガーデンテラス紀尾井町の賃料収入増加などにより増益
償却前営業利益	19,571	22,642	+ 3,070	+ 15.7%	

(面積：千㎡)

		2016/3期 第3Q	2017/3期 第3Q	対前年同期	2018/3期 第3Q	対前年同期	2019/3期 第3Q	対前年同期
建物賃貸物件	商業施設	233	237	+ 3	236	△ 1	244	+ 7
の期末貸付面積	オフィス・住宅	59	161	+ 102	171	+ 9	172	+ 0
建物賃貸物件	商業施設	1.2%	0.7%	△ 0.5pt	1.2%	+0.5pt	1.0%	△ 0.2pt
の期末空室率	オフィス・住宅	15.5%	2.3%	△ 13.2pt	0.5%	△ 1.8pt	1.9%	+1.4pt

(注) 土地の賃貸は含んでおりません

# 建設事業 概況

(金額単位：百万円)

	2018/3期 第3Q	2019/3期 第3Q	対前年同期 (増減額・率)		摘要
営業収益	71,291	75,589	+ 4,297	+ 6.0%	
建設業	52,424	55,370	+ 2,946	+ 5.6%	建築工事やリノベーション工事が増加したことなどにより増収
その他	18,867	20,218	+ 1,350	+ 7.2%	造園請負工事の増加や建材の仕入販売の増加などにより増収
営業利益	3,661	3,656	△ 5	△ 0.1%	民間住宅工事の減少や利益率の低下、販管費の増加などにより前年同期比横ばい
償却前営業利益	3,946	3,964	+ 17	+ 0.4%	

## 建設業の受注高の状況

(金額単位：百万円)

	2016/3期 第3Q	2017/3期 第3Q	対前年同期	2018/3期 第3Q	対前年同期	2019/3期 第3Q	対前年同期
期首繰越高	84,335	99,069	+ 14,733	89,755	△ 9,313	100,542	+ 10,787
期中受注高	56,172	57,690	+ 1,518	58,331	+ 640	50,852	△ 7,479
期末繰越高	89,913	99,685	+ 9,772	95,839	△ 3,846	96,308	+ 469

# ハワイ事業 概況

(金額単位：百万円)

	2018/3期 第3Q	2019/3期 第3Q	対前年同期 (増減額・率)		摘要
営業収益	11,581	13,943	+ 2,362	+ 20.4%	ハプナビーチプリンスホテルの改装による営業規模縮小や、キラウエア火山の噴火の影響があったものの、プリンス ワイキキ、マウナ ケア ビーチホテルにおいて平均販売室料・客室稼働率ともに上昇したことにより増収
営業利益	△ 1,398	△ 1,194	+ 204	-	増収により損益が改善
償却前営業利益	161	702	+ 541	+ 336.0%	

## ホテルの営業指標

	2016/3期 第3Q	2017/3期 第3Q	対前年同期	2018/3期 第3Q	対前年同期	2019/3期 第3Q	対前年同期
RevPAR (円)	21,294	19,100	△ 2,194	18,523	△ 577	25,503	+ 6,980
RevPAR (米ドル)	177.75	173.63	△ 4.12	176.41	+ 2.78	221.77	+ 45.36
平均販売室料 (円)	28,612	27,149	△ 1,463	29,832	+ 2,683	35,322	+ 5,490
平均販売室料 (米ドル)	238.83	246.81	+ 7.98	284.11	+ 37.30	307.15	+ 23.04
客室稼働率	74.4%	70.4%	△ 4.0pt	62.1%	△ 8.3pt	72.2%	+ 10.1pt

## その他 概況

(金額単位：百万円)

	2018/3期 第3Q	2019/3期 第3Q	対前年同期 (増減額・率)		摘要
営業収益	32,317	34,661	+ 2,343	+ 7.3%	西武ライオンズにおいて各種営業施策の実施や好調なチーム成績を背景に観客動員数が増加したほか、選手関連グッズの販売が好調に推移したことなどにより増収
営業利益	2,266	2,586	+ 319	+ 14.1%	増収による増益
償却前営業利益	4,406	4,838	+ 432	+ 9.8%	

I. エグゼクティブ・サマリー P2

II. 2019年3月期 第3四半期までの主な取り組み P6

III. セグメント情報及び営業指標 P9

**IV. 決算実績詳細 P22**

V. 2019年3月期 連結業績予想 P26

# 連結損益計算書サマリー

(金額単位：百万円)

	2018/3期 第3Q	2019/3期 第3Q	対前年同期	摘要
営業収益	398,629	421,662	+ 23,033	都市交通・沿線：+12億円、ホテル・レジャー：+113億円、 不動産：+15億円、建設：+42億円、ハワイ：+23億円、 その他：+23億円
営業利益	54,726	58,807	+ 4,080	都市交通・沿線：△11億円、ホテル・レジャー：+19億円、 不動産：+22億円、建設：△0億円、ハワイ：+2億円、 その他：+3億円
営業外収益	2,397	2,429	+ 32	
営業外費用	8,834	8,618	△ 216	
経常利益	48,289	52,618	+ 4,329	
特別利益	1,047	832	△ 214	
特別損失	2,498	3,544	+ 1,046	当期：投資有価証券評価損 11億円
税金等調整前四半期純利益	46,837	49,906	+ 3,068	
法人税等	12,816	13,092	+ 276	
四半期純利益	34,021	36,814	+ 2,792	
非支配株主に帰属する四半期純利益	524	455	△ 68	
親会社株主に帰属する四半期純利益	33,497	36,358	+ 2,860	

# 営業外・特別損益

(金額単位：百万円)

	2018/3期 第3Q	2019/3期 第3Q	対前年同期	摘要
営業利益	54,726	58,807	+ 4,080	
営業外収益	2,397	2,429	+ 32	
受取利息・配当金	839	912	+ 73	
バス路線運行維持費補助金	369	384	+ 14	
その他営業外収益	1,188	1,133	△ 55	
営業外費用	8,834	8,618	△ 216	
支払利息	8,008	7,656	△ 351	
持分法による投資損失	69	78	+ 8	
その他営業外費用	756	882	+ 126	
経常利益	48,289	52,618	+ 4,329	
特別利益	1,047	832	△ 214	
固定資産売却益	65	337	+ 272	
工事負担金等受入額	91	132	+ 41	
補助金収入	119	65	△ 54	
投資有価証券売却益	5	—	△ 5	
受取補償金	744	39	△ 705	
移籍補償金	18	210	+ 191	
その他特別利益	2	47	+ 45	
特別損失	2,498	3,544	+ 1,046	
減損損失	51	177	+ 125	
固定資産売却損	153	325	+ 172	
固定資産除却損	1,455	1,587	+ 132	
工事負担金等圧縮額	82	118	+ 35	
固定資産圧縮損	105	53	△ 52	
投資有価証券売却損	16	—	△ 16	
投資有価証券評価損	438	1,186	+ 748	
その他特別損失	194	96	△ 98	
税金等調整前四半期純利益	46,837	49,906	+ 3,068	

# 連結貸借対照表サマリー

(金額単位：百万円)

	2018/3期 期末	2019/3期 3Q末	対前期	摘要
資産 合計	1,669,223	1,676,773	+ 7,549	
流動資産	112,414	128,864	+ 16,449	受取手形及び売掛金 +6,598 未成工事支出金 +4,991 分譲土地建物 +1,686
固定資産	1,556,808	1,547,908	△ 8,899	有形・無形固定資産 △4,988 繰延税金資産 △1,758 投資有価証券 △1,427
負債 合計	1,274,275	1,261,300	△ 12,975	
流動負債	328,782	328,266	△ 515	未払法人税等 △3,777 支払手形及び買掛金 △3,008 賞与引当金 △2,928 その他 △19,983 (設備投資未払金等の減少) 短期借入金 +16,316 前受金 +12,948
固定負債	945,493	933,033	△ 12,460	長期借入金 △21,513 鉄道・運輸機構長期未払金 △2,561 社債 +10,000
純資産 合計	394,947	415,472	+ 20,524	利益剰余金 +29,120 自己株式 △5,228 退職給付に係る調整累計額 △2,964
有利子負債 期末残高	905,091	907,112	+ 2,020	
ネット有利子負債	875,147	876,936	+ 1,788	

(注) 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産(固定資産)の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。2018年3月期末の数値については、当該会計基準等を遡って適用した後の数値となっております。

I. エグゼクティブ・サマリー	P2
II. 2019年3月期 第3四半期までの主な取り組み	P6
III. セグメント情報及び営業指標	P9
IV. 決算実績詳細	P22
<b>V. 2019年3月期 連結業績予想</b>	<b>P26</b>

# 2019年3月期 連結業績予想 (期初予想と変更はございません)

(金額単位：億円)

	連結	都市交通・沿線事業	ホテル・レジャー事業	不動産事業	建設事業	ハワイ事業	その他	調整額
	対前期	対前期	対前期	対前期	対前期	対前期	対前期	対前期
営業収益	5,699 + 7.4%	1,633 + 0.8%	2,218 + 8.3%	673 + 8.0%	1,095 + 9.5%	211 + 37.2%	396 + 0.4%	△ 527 -
営業利益	670 + 4.3%	260 △ 4.6%	199 + 15.0%	170 + 7.5%	46 △ 3.2%	0 -	0 △ 100.0%	△ 5 -
償却前営業利益	1,209 + 4.6%	477 △ 2.8%	362 + 10.6%	270 + 7.7%	51 △ 1.0%	27 -	31 △ 21.7%	△ 9 -
経常利益	581 + 4.7%							
親会社株主に帰属する 当期純利益	436 + 1.6%							

(注) 連結業績予想につきましては、発表日現在で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。